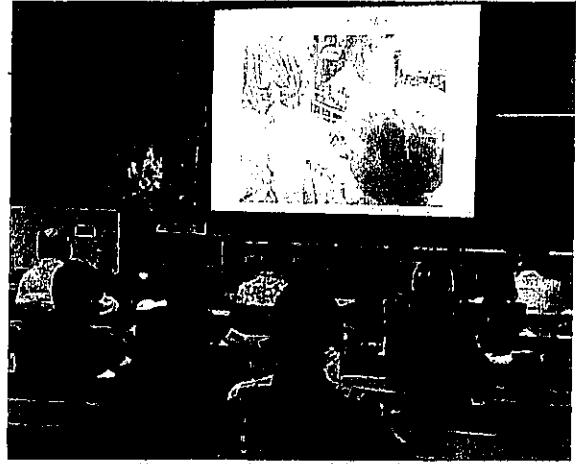


「傾聴 患者は心を開く」



臨床宗教師を雇用する沼口医院の取り組みなどが紹介された特別講義

龍谷大大宮学舎で特別講義 臨床宗教師雇用の院長講演

医療現場などで傾聴を通じて心のケアを行う「臨床宗教師」を養成している龍谷大大学院は17日、京都市下京区の龍谷大大宮学舎で特別講義を行い、沼口医院（岐阜県大垣市）の沼口諭

院長（53）が「医療と仏教のコーディネート 臨床宗教師」をテーマに講演した。真宗大谷派の僧侶でもある沼口院長は昨年4月から、東北大大学院で研修を受けた臨床宗教師を雇用。

在宅緩和ケアを受ける患者の自宅を訪問し、患者や家族の傾聴に当たってもらっている。

末期の患者について「異常者と思われないか、薬がたぐさん出されないかと恐れて、医療スタッフに悩みを打ち明けにくい」と指摘。

沼口院長は、死への不安や生きる意味を問うスピリチュアルな苦痛を抱える終末期の患者について「異常者と思われないか、薬がたぐさん出されないかと恐れて、医療スタッフに悩みを打ち明けにくい」と指摘。

「宗教者がゆったり傾聴すること、患者は心を開いてくれる。医療チームとして苦しみを理解し、次の医療やケアに反映させている」と、臨床宗教師が果たしている役割を語った。

また、看取りや「終活」に関する人材を育成しようとする取り組みが、宗教界

以外にもみられる現状を踏まえて「国民のニーズがあることを、宗教者は理解すべきだ」とも述べた。

今回の特別講義は22日、東北大大学院の鈴木岩月教授が「わが国の宗教史における臨床宗教師」として講演する。一般の聴講も可能。

問い合わせは龍谷大文学部教務課（☎075・343・3317）。

2015年6月23日(水)

産経新聞(朝刊)京都面